

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-4-003
補助事業名 平成26年度被災地および被災地受け入れ地域における高齢者、児童、
障害者等を対象とした生活支援活動補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

はしかみ交流広場の交流スペースで行う編み物やカフェスペースに人が集まることによって、地域の住民同士が出合い、新たな関係を築くことができる。また、仮設住宅の住民と在宅の住民の間にある壁をなくすことで、新しいコミュニティになっても孤立せずに生活することができる。

さらに、交流スペースで住民の方々が作った作品などをボックスショップで販売するに当たり、日中特に仕事をしていない方にボランティアスタッフとして関わってもらうことで、その方の社会参加、役割の獲得の機会となり、生きがいくりになる。

(2) 実施内容

i) コミュニティカフェ

事務所兼フリースペースとして開放している「はしかみ交流広場」(日曜、火曜定休)にカフェスペースを設置し、フリースペースにあるマッサージチェアと共に地域住民に利用してもらい、住民同士の交流を図った。また、近くの仮設住宅の自治会長など地域のキーパーソンに利用してもらうことで、地域住民の問題について相談や情報共有を行い、行政を巻き込んでケア会議を行うなど、地域の住民を見守る窓口となった。



(別紙5)

ii) 編み物講座

毎週水曜日の午後にはしかみ交流広場で仮設住宅、在宅問わず近隣住民の方を対象に、編み物講座を開催した。作品を作る達成感だけでなく、仲間同士で見せ合ったり人にあげて喜ばれたりすることを楽しみに通う方が多かった。編み物講座をきっかけに新しい仲間づくりができた方もいた。



iii) ミニ健康講座・健康に関するワンポイントアドバイス等

編み物やカフェに集まった人を対象に、セルフケア（健康の知識の習得）、介護予防などについてのミニ健康講座を開催した。

(別紙5)

iv) ボックスショップ

カフェスペース内に棚を設置し、その1区画を住民に貸し出し、手作りの作品等の販売をしてもらった。編み物講座の参加者が利用し、作品を展示したり売ったりすることで、作品作りによりやりがいを感じている方もいた。



2 予想される事業実施効果

新しい災害公営住宅や防災集団移転では、もともと違う集落に住んでいた人たちが同じ集落に集まり、そこで新しくコミュニティを作ることになる。はしかみ交流広場のカフェや編み物講座、ボックスショップの活動を通して、仮設住宅と在宅との垣根がなくなり、新しいつながりをスムーズに作ることが出来る。また、手作りの作品の作成等を通して、高齢者の生きがいや楽しみを作ることが出来る。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

生活支援プロジェクトKニュースレター[第4号](#)・[第5号](#)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 特定非営利活動法人生活支援プロジェクトK
(トクテイヒエイリカツドウハウジンセイカツシエンプロジェクトケー)

住 所 : 〒988-0141
宮城県気仙沼市松崎柳沢228-117

代 表 者 : 代表理事 阿部 正孝 (アベ マサタカ)

担 当 部 署 : 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名 : 事務局長 西城 宗子 (サイジョウ ムネコ)

電 話 番 号 : 090-4076-5071

F A X : なし

E - m a i l : ssprojectk@yahoo.co.jp

U R L : <http://seikatsushien-k.jimdo.com/>